

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和4年7月25日

三田市議会議長

様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会派名	市民の会	代表者	
		議員名	肥後 淳三
派遣者氏名			
視察先	静岡県掛川市長谷1-1-1 掛川市役所		
調査事項 (調査目的)	掛川市 ◎タブレットPC「こころの相談ノート」 ◎スマートメーター見守りサービス		
視察先対応者	議会事務局 庶務係：川隅 彩 主任 市議会 文教厚生委員会：嶺岡 慎悟 委員長： 都市建設部 都市政策課 住宅政策室 住まい・空き家対策係：服部 和敏 係長・小谷 大矢 主事 教育委員会 教育部 学校教育課 指導係：鈴木 佑生 主事・宮崎 直哉 指導主事		
(調査結果の概要及び所見) ○所見及び詳細資料は肥後の報告書に添付			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

(掛川市調査報告：7月13日)

## 1 調査内容

スマートメーター見守りサービス

## 2 スマートメーター見守りサービスについて

### (1) スマートメーターとは

スマートメーターは、ガスや水道使用量のデータが伝送可能なメーターのことを言う。

従来、電力会社が電気使用量のスマートメーターを活用し高齢者等の見守りサービスを提供していることは良く聞く話したが、電気の場合は、待機電力、タイマーによるオンオフの電気使用もあり、人の活動により消費されたものかが分かり難いとの評価があった。

掛川市では、地元のガス会社中遠ガスと愛知時計電機による連携協力を得て、ガスと水道メーターを従来のアナログメーター方式からスマートメーターに転換し、高齢者の見守りに役立てる実証実験を展開していた。

### (2) 実証実験に至る背景と経過

掛川市の人口は、3月末現在で11万6千人、高齢化率約28%の市であり、人口規模や高齢化の進展において三田市に似ており、単身世帯の増加と高齢化が市の大きな課題である。

掛川市営団地（十九首団地：じゅうくしゅ）では、20年度に5件の孤独死が発生、新型コロナウイルスの影響もあり、住民間の交流が減ってきており、見守りが課題となった。

地元市議が、20年12月にこの事態を中遠ガスに相談したところ、中遠ガスが愛知時計電機に話を持ち掛けガスと水道のスマートメーター活用による見守りの提案を掛川市に21年3月に持ち掛けた。

この結果、21年12月に実証実験に係る協定を締結した。実験期間は、1年間とし22年1月28日から実証実験を開始した。

### (3) スマートメーター見守りサービス考察

#### ア 団地での実証実験世帯数

十九首団地内に住む13世帯（65歳以上で12世帯が一人暮らし）が対象

#### イ 事業予算

今回の実証実験で掛川市は従来の水道メーターとスマートメーターの取り換え工事費用と通信費のみを負担。ガスメーターは、中遠ガスが通信費も含めて全額負担している。

したがって、市の令和3年度事業予算としては、13台分の水道メーター交換費用の52,581円とひと月あたりの水道スマートメーターの通信費2,860円（100円×13台×2月×1.1）合計55,441円である。また、令和4年度予算も68,311円の見込。

#### ウ 課題と考察

① 水道メーターによる検証では、午前5時から午前9時までの異常データ（2リットル以上利用がない）を検知した場合、メールで連絡が来ることになっているが、世帯によっては、夜の仕事をしている方がおられたりして異常通報があった。都度生活様式に合わせながら通報システムに反映させている。

② ガスメーターについては、1週間の利用をグラフ化する等、検証を進めている段階である。

③ 1年間実証して見守りに使うことができるかを検証し次年度以降に事業展開予定。

- ④ 大きな課題としては、掛川市の水道部局にスマートメーターの交換予定がないこと。さらにスマートメーター自体が、通常の水道メーターの10倍ほど経費が高くなることから、見守り事業に使うにはかなりハードルが高い。
- ⑤ 今後は、単身者の家族などからの申請に基づいた見守りサービスに転嫁できないかなど、別の角度で検討する必要がある。
- ⑥ 単身生活をしている高齢者の家族（子や孫など）は、親の健康面が心配である。生活していく上でスマート化については、近年のIT化の進展に伴い実用化が近づいており、電気やガス、水道の併用等で見守りに繋いでいくことができるのではないかと思われる。

### 3 タブレットPC「こころの相談ノート」

#### (1) こころの相談ノートとは

ギガスクールが推進され、全国の小中学校にタブレットが児童、生徒に一人1台配付された。

掛川市教育委員会では、全児童と生徒に10,600台のタブレットを配布。タブレット内にいじめ等に係る相談のアイコンが設けられ、いつでも児童や生徒からの相談を受け付けている。

#### (2) こころの相談ノート概要と流れ

学習用 iPad のホーム画面にアイコンを作り、「勉強のこと」「おうちのこと」「いじめのこと」「からだのこと」「そのほかのこと」の5テーマで児童生徒の悩みを受け付けている。

- ① アイコンをクリックすると5個の相談項目が表示される。
- ② 自分の相談に合った項目をクリックするとグーグルホームの質問事項が現れ、回答する。匿名でも送信が可能。
- ③ 回答が終われば、相談相手を選択し送信ボタンを押す。
- ④ 掛川市の指導主事6名（31校、9校区割り）全員に相談内容が開示され、指導主を決定する。
- ⑤ 指導主事から対象小中学校の教頭先生に報告される。学校との連携が開始される。
- ⑥ 対応について後日報告会が開催され情報共有される。

#### (3) 課題と考察

##### ① 課題

課題は、特になし。これまでも掛川市では、月に一度いじめに関するアンケートを紙ベースで取っていたが、これがタブレットに置き換わった感じであり、児童や生徒はタブレットを自宅に持ち帰っており、些細な出来事などから相談できる利点がある。

教育委員会としては、大ごとになる前にキャッチできるためにコストもかからない良いシステムでないかと考えている。

また、教員の目が行き届くようになったことがあるのか、問題行動の報告数が上昇している。

##### ② 考察

三田市は、未だにタブレットを持ち帰らせてはいない。いじめやその他の相談については、その窓口を常に開けておくことが重要であり、素早い対応が肝心である。三田市には、今後タブレットの持ち帰りとアイコンの導入などを検討して貰いたい。

掛川市では、1,200台分のモバイルルーターを持ち合わせており、ネット環境が整っていない家庭からの申し出により対応している。このあたりもタブレットを持ち帰らせる教育委員会の本気度を感じる。

以上（肥後）

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和4年7月25日

三田市議会議長

様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代 表 者	
		議 員 名	肥 後 淳 三
派遣者氏名			
視 察 先	静岡県静岡市葵区追手町5-1 静岡市役所		
調 査 事 項 (調査目的)	静岡市： ◎SDGs ◎移住・定住促進施策		
視察先対応者	議会事務局 佐藤征教 課長 企画局 企画課 移住・事業推進係：大石祥代 主任主事 ・ 増田早紀 主任主事 政策企画・調整係：塩谷佳代 主査 亀山美佐子 移住コンシェルジュ		
(調査結果の概要及び所見) 詳細資料は、檜田議員の報告書に添付（肥後所見は下記） (SDGsについて) 現在のSDGsの推進については、第4次総合計画に基づき平成30年4月から実際指針として実行に移されている。 SDGsの取組みは、一つの課が責任をもって取り組むのではなく関係する部、課が市役所内で連携して取り組むことが重要であると感じた。 平成30年4月からこれまで設置していた「人口減少対策推進本部会議」を改め、「静岡市創生・SDGs推進本部会議」に会議の名称と役割を見直した。 本部長は、市長で副市長2名と33名の局長級（三田市は部長級となります）の推進本部があり、その下に各課SDGs主任がSDGs推進の考え方等を共有している。 平成30年6月に「世界に輝く静岡」の実現 静岡5大構想×SDGsと題した未来環境都市提案が選定された。それ以降市民への認知度啓蒙活動、職員研修、企業へのSDGs宣言事業などを実施し、現在では市民、事業所が静岡市の進めるSDGsの認知度は70%近くになっている。今後は、普及啓発からパートナーシップへとシフトしSDGs推進を図っていく。 三田市は、まだまだSDGsについての認知度が低く、今後も市長を中心とした取り組みが必要だと感じた。 (静岡市の移住・定住施策について) 静岡市の移住・定住施策の全体像は、ステップ1～4までとなっている。 ステップ1では、移住情報の発信。ステップ2では、移住相談・検討。ステップ3では、具体的な移住準備（移住を考えている方向け）。ステップ4では、移住後のフォロー			

(定住者向け)と政策段階で分かれている。

移住・定住施策は、企画局だけではなく、当然あらゆる課にまたがっているが、全体を見て動かしているのが、移住コンシェルジュと言われる方である。

現在、コンシェルジュは、企画課に1名、清水地区総務課に1名の2名を配置。都市部は主に企画課、郡部は主に総務課のコンシェルジュが対応する。

オンラインでの相談の他、実際に住居希望地周囲の街歩きを行う中で、移住希望者が何を望んで静岡に移住しようとしているのかを探り、アドバイスをを行い移住に繋げている。

また、東京の有楽町に静岡市移住支援センターを配置し、そこにも相談員2名を配置しきめ細やかな相談に乗っている。

移住・定住相談は、コロナ禍にあって年々増加しているが、移住補助制度、新幹線通学定期貸付など金銭面での制度のことだけではなく、静岡の良さを知っていただき、移住・定住に繋げていきたいとの亀山コンシェルジュの熱い思いが印象的であった。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和4年7月25日

三田市議会議長

様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民の会	代表者	
		議員名	肥後 淳三
派遣者氏名			
視 察 先	静岡県裾野市佐野1059 裾野市役所		
調 査 事 項 (調査目的)	裾野市： ◎SDCC 裾野デジタルクリエイティブシティ ◎DX Shoes の取組		
視察先対応者	議会事務局 河合正彦 局長 市議会 賀茂博美 議長： 市長戦略部 戦略推進課 長田雄次 主幹（兼 ウーブン・シティ周辺整備推進監付） 中原義人 係長		
<p>(調査結果の概要及び所見) 詳細資料は、美藤議員の報告書に添付（肥後所見は下記） (SDCC について)</p> <p>裾野市は、人口5万人のまちの触れ込みであるが、現在は、4万9千人となっている。どの市も人口増加施策に頭を悩ませている。</p> <p>裾野市のSDCC（裾野デジタルクリエイティブシティ）構想がつけられた背景には、トヨタ工場が撤退しそこに「ウーブン・シティ」と言う実証都市を建設する発表があったからに他ならない。裾野市では、実証都市の近くにあるJR岩崎駅を中心に開発を進め、ウーブン・シティに見合うだけの環境整備を実施する予定である。</p> <p>裾野市のまちづくりの目標としては、「デジタルで市民生活を豊かにする～市民が豊かに生きる喜び～」として若くして当選した新市長と新副市長のリーダーの存在で人口増加に向けた取り組みが加速されつつあると感じた。</p> <p>三田市には、裾野市のような核となる事業がなく、スマートシティ構想として描いてはいるものの実態が伴わないのではないかと危惧している。</p> <p>市民の思い描くスマートシティと行政の描くスマートシティの溝をこれから埋める必要があると感じる。DX Shoes の取組みもデジタルで市民生活を豊かにする取り組みの一つに包含されることが判明した。</p>			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

# 政務調査活動・先進地調査等 報告書

(掛川市調査報告：7月13日)

## 1 調査内容

スマートメーター見守りサービス

## 2 スマートメーター見守りサービスについて

### (1) スマートメーターとは

スマートメーターは、ガスや水道使用量のデータが伝送可能なメーターのことを言う。

従来、電力会社が電気使用量のスマートメーターを活用し高齢者等の見守りサービスを提供していることは良く聞く話のだが、電気の場合は、待機電力、タイマーによるオンオフの電気使用もあり、人の活動により消費されたものかが分かり難いとの評価があった。

掛川市では、地元のガス会社中遠ガスと愛知時計電機による連携協力を得て、ガスと水道メーターを従来のアナログメーター方式からスマートメーターに転換し、高齢者の見守りに役立てる実証実験を展開していた。

### (2) 実証実験に至る背景と経過

掛川市の人口は、3月末現在で11万6千人、高齢化率約28%の市であり、人口規模や高齢化の進展において三田市に似ており、単身世帯の増加と高齢化が市の大きな課題である。

掛川市営団地（十九首団地：じゅうくしゅ）では、20年度に5件の孤独死が発生、新型コロナウイルスの影響もあり、住民間の交流が減ってきており、見守りが課題となった。

地元市議が、20年12月にこの事態を中遠ガスに相談したところ、中遠ガスが愛知時計電機に話を持ち掛けガスと水道のスマートメーター活用による見守りの提案を掛川市に21年3月に持ち掛けた。

この結果、21年12月に実証実験に係る協定を締結した。実験期間は、1年間とし22年1月28日から実証実験を開始した。

### (3) スマートメーター見守りサービス考察

#### ア 団地での実証実験世帯数

十九首団地内に住む13世帯（65歳以上で12世帯が一人暮らし）が対象

#### イ 事業予算

今回の実証実験で掛川市は従来の水道メーターとスマートメーターの取り換え工事費用と通信費のみを負担。ガスメーターは、中遠ガスが通信費も含めて全額負担している。

したがって、市の令和3年度事業予算としては、13台分の水道メーター交換費用の52,581円とひと月あたりの水道スマートメーターの通信費2,860円（100円×13台×2月×1.1）合計55,441円である。また、令和4年度予算も68,311円の見込。

#### ウ 課題と考察

- ① 水道メーターによる検証では、午前5時から午前9時までの異常データ(2リットル以上利用がない)を検知した場合、メールで連絡が来ることになっているが、世帯によっては、夜の仕事をしている方がおられたりして異常通報があった。都度生活様式に合わせながら通報システムに反映させている。
- ② ガスメーターについては、1週間の利用をグラフ化する等、検証を進めている段階である。
- ③ 1年間実証して見守りに使うことができるかを検証し次年度以降に事業展開予定。

- ④ 大きな課題としては、掛川市の水道部局にスマートメーターの交換予定がないこと。さらにスマートメーター自体が、通常の水道メーターの10倍ほど経費が高くなることから、見守り事業に使うにはかなりハードルが高い。
- ⑤ 今後は、単身者の家族などからの申請に基づいた見守りサービスに転嫁できないかなど、別の角度で検討する必要がある。
- ⑥ 単身生活をしている高齢者の家族（子や孫など）は、親の健康面が心配である。生活していく上でスマート化については、近年のIT化の進展に伴い実用化が近づいており、電気やガス、水道の併用等で見守りに繋いでいくことができるのではないかと思われる。

### 3 タブレットPC「こころの相談ノート」

#### (1) こころの相談ノートとは

ギガスクールが推進され、全国の小中学校にタブレットが児童、生徒に一人1台配付された。

掛川市教育委員会では、全児童と生徒に10,600台のタブレットを配布。タブレット内にいじめ等に係る相談のアイコンが設けられ、いつでも児童や生徒からの相談を受け付けている。

#### (2) こころの相談ノート概要と流れ

学習用 iPad のホーム画面にアイコンを作り、「勉強のこと」「おうちのこと」「いじめのこと」「からだのこと」「そのほかのこと」の5テーマで児童生徒の悩みを受け付けている。

- ① アイコンをクリックすると5個の相談項目が表示される。
- ② 自分の相談に合った項目をクリックするとグーグルホームの質問事項が現れ、回答する。匿名でも送信が可能。
- ③ 回答が終われば、相談相手を選択し送信ボタンを押す。
- ④ 掛川市の指導主事6名（31校、9校区割り）全員に相談内容が開示され、指導主を決定する。
- ⑤ 指導主事から対象小中学校の教頭先生に報告される。学校との連携が開始される。
- ⑥ 対応について後日報告会が開催され情報共有される。

#### (3) 課題と考察

##### ① 課題

課題は、特になし。これまでも掛川市では、月に一度いじめに関するアンケートを紙ベースで取っていたが、これがタブレットに置き換わった感じであり、児童や生徒はタブレットを自宅に持ち帰っており、些細な出来事などから相談できる利点がある。

教育委員会としては、大ごとになる前にキャッチできるためにコストもかからない良いシステムでないかと考えている。

また、教員の目が行き届くようになったことがあるのか、問題行動の報告数が上昇している。

##### ② 考察

三田市は、未だにタブレットを持ち帰らせてはいない。いじめやその他の相談については、その窓口を常に開けておくことが重要であり、素早い対応が肝心である。三田市には、今後タブレットの持ち帰りアイコンの導入などを検討して貰いたい。

掛川市では、1,200台分のモバイルルーターを持ち合わせており、ネット環境が整っていない家庭からの申し出により対応している。このあたりもタブレットを持ち帰らせる教育委員会の本気度を感じる。

以上（肥後）